

講義名	対2)スクールソーシャルワーク論			授業形態	
担当教員	岩崎 久志	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要

今日、教育現場においても子どもたちの生涯全般に関わる深刻な問題が増加してきている。この授業では、学校教育に関わる社会福祉の専門分野であるスクールソーシャルワークについて理解し、福祉的な視点から問題解決を図っていくための支援のあり方について学習する。事例等を通じて子どもたちが抱える問題を概観した上で、それらの問題をスクールソーシャルワークがどのような視点で捉え、どのような実践モデルや援助技術を用いて介入するのかについて理解を深めていく。

到達目標

スクールソーシャルワークとは何かを知り、学校現場でソーシャルワークによる支援活動を行う意義を理解できる。
 スクールソーシャルワークの実践モデルに基づくミクロ、メゾ、マクロレベルのスクールソーシャルワーカーの機能と役割を理解できる。

提出課題

授業の中で指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題の提出や小テストを実施した直後の授業において、講評や特徴的な記述内容等の紹介を行う。それに引き続いて、解説や質疑応答を実施する。

評価の基準

定期試験（50％）、授業中に課す小レポート（30％）、授業への積極的参加度（20％）を総合的に評価する。

履修にあたっての注意・助言他

将来、教職に就くことを念頭に置いて、積極的に授業に参加することを期待している。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

資料は適宜配布する。

授業計画

- 第1回：スクールソーシャルワークとは：価値、目的、役割
- 第2回：スクールソーシャルワークの発達史
- 第3回：日本におけるスクールソーシャルワークの現状
- 第4回：学校教育とソーシャルワークの関係
- 第5回：不登校とスクールソーシャルワーク実践
- 第6回：いじめ問題とスクールソーシャルワーク実践
- 第7回：暴力行為、非行とスクールソーシャルワーク実践
- 第8回：特別支援とスクールソーシャルワーク実践
- 第9回：学力保障とスクールソーシャルワーク実践
- 第10回：児童虐待とスクールソーシャルワーク実践
- 第11回：貧困とスクールソーシャルワーク実践
- 第12回：精神疾患とスクールソーシャルワーク実践
- 第13回：外国籍の子どもたちとスクールソーシャルワーク実践
- 第14回：教育改善とスクールソーシャルワーク実践
- 第15回：振り返り・まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

教育と福祉の接点に関心を持ち、授業に臨むよう心掛けてほしい。授業の中で、予習しておくべき内容や事項について指示する（毎回2時間程度）。
 復習についても、基本的には授業においてポイントとなる項目や事象を提示・紹介していく。授業で学んだ事柄を、知識および技能の両面にわたって習得するように努めてもらいたい（毎回2時間程度）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

教職課程に関連する科目として位置づけられるものである。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業では、説明のあと質問をしたり適宜コメントを求める。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
 スクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーとしての教育現場における支援経験に基づき、具体的な理論の実践における活用方法や事例の紹介を行う。

備考

教職課程を履修する学生の受講が望ましい科目である。